

Public Interest Incorporated Foundation for Shiretoko Institute of Wildlife Management

設立財団ニュースレター

Vo1. 20

2020年3月25日発行

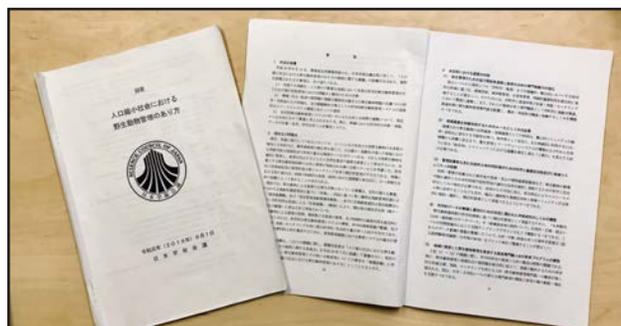
2019年度

■ 知床&ワイルドライフマネジメント NEWS ■

2019年度（令和元年度）もうすぐ終わり。当財団が独断で選んだ、今年度の知床や全国各地で起こった野生生物に関するニュースをご紹介します。各ニュースには専門家のコメントも掲載しています。知床&ワイルドライフマネジメントの1年を振り返ってみてください。

ニュース一覧

- 1、 知床世界自然遺産登録 14 周年を迎える
- 2、 日本学術会議が「人口縮小社会における野生動物管理のあり方」の検討結果を回答
- 3、 札幌市南区の住宅地に、連日ヒグマが出没
- 4、 知床ネイチャーキャンパス 2019 を開催
- 5、 オーストラリアの森林火災が相次ぎ発生、コアラなど野生動物にも大きな被害
- 6、 知床自然教室 40 周年企画「知床への回帰」が開催されました
- 7、 世界自然遺産登録を目指す「奄美大島、徳之島、沖縄島北部および西表島」で IUCN が現地調査
- 8、 北海道内農林水産業の鳥獣被害が 2 年連続増加、平成 30 年度は 48 億円に
- 9、 豚コレラの対策続く、誤解を避けるため名称を CSF に変更
- 10、 イノシシが東京 23 区内に出没



7月：知床世界自然遺産登録 14 周年を迎える

2005 年 7 月 17 日に世界自然遺産に登録された知床。14 周年を迎えました。2019 年 6～7 月にアゼルバイジャンで開かれた第 43 回世界遺産委員会では、知床の保全状況の審議がなされ、根室海峡のトドの漁業被害や駆除、ルシャ川の治水ダムの改良などについて、課題や評価が示されました。

<参考>

http://shiretoko-whc.com/data/management/kanri/ShiretokoDecision_43COM7B.12J.pdf



8月：日本学術会議が「人口縮小社会における野生動物管理のあり方」の検討結果を回答

日本学術会議（山極壽一会長）は、前年から「人口縮小社会における野生動物管理のあり方に関する委員会」を進めてきた望ましい野生動物管理体制などの検討について、5つの提言をまとめた回答を発表しました。12月には関連した公開シンポジウムも開催し、保護管理を担う人材育成の重要性などが確認されました。

comment! 公益財団法人知床自然大学院大学設立財団 中川 元・業務執行理事



我が国の喫緊の課題となった野生動物問題。1年余の間に集中して委員会審議が行われ、自治体への専門職員の配置や、科学的データの集積など5項目の提言がなされた。その中に「高度専門職人材の教育プログラムの創設」が盛り込まれた意味は大きい。野生動物問題によって加速される地域の衰退を止めるには専門職員の配置が不可欠である。当財団も保護管理の現場で学ぶ教育プログラムの創設に取り組み、人材養成体制の構築を急ぎたい。

8月：札幌市南区の住宅地に、連日ヒグマが出没

8月上旬から、札幌市南区の住宅街に連日ヒグマが出没。家庭菜園が荒らされるなどの被害が相次ぎました。札幌市は10日に箱わなを設置しましたが捕獲できず。ヒグマは夜間だけでなく日中もうろつくようになり、14日に駆除されました。人身被害はありませんでしたが、テレビや新聞で連日報道され、大きな話題になりました。（参考・北海道新聞 8月14日）

comment! 公益財団法人知床自然大学院大学設立財団 鈴木 幸夫・理事



今年の札幌は、このニュースの藤野・簾舞地区だけでなく、野幌森林公園周辺や国設滝野ずらん公園など市内各所で出没が相次いだ。分けてもこの事例は、8月6日から14日まで長期間に及び、マスコミによる連日の過熱気味な報道や、射殺に対する主として道外からの猛烈な非難の声でも話題になった。このメスヒグマは、8年前からこの周辺で活動していたことが研究者に認識されていた。大都市と山間部の境界に位置する住宅地域での対応の難しさ。駆除は唯一の解決策ではない。ヒグマとの共存を図り、問題の発生を未然に防ぐ。そんなワイルドライフマネジメントの重要性を、私たちが財団創設以来訴えてきたのは、こうした事態の頻発を予想していたことからでもある。

9月：知床ネイチャーキャンパス 2019 を開催

知床自然大学院大学設立財団は9月、4回目となる知床ネイチャーキャンパス 2019 を開催しました。全国から24人の学生、社会人が参加し、今年は初めて事前オンライン講義を実施。その後の知床実習では、知床100平方メートル運動地や岩尾別川流域、知床五湖などで野生生物保護管理の実際を学びました。

comment! 公益財団法人知床自然大学院大学設立財団 中川元・業務執行理事



保護管理の専門職人材の養成には、様々な問題に取り組む現場での教育が不可欠である。農林水産業被害の低減、観光地における野生動物問題の解決、生活との軋轢の解消など、現地では関係機関や住民による日々の取り組みがある。ここをフィールドに学び、地域との交流から得るものは大きい。知床ネイチャーキャンパスでは実践活動を通して現地教育プログラムの創設と、大学や全国各地域との連携による教育体制の実現を目指している。

9月：オーストラリアの森林火災が相次ぎ発生、コアラなど野生動物にも大きな被害

9月ごろから本格化したオーストラリアでの森林火災。日本の国土の約半分に当たる1,800万ヘクタール以上に延焼し、人や住宅のほかコアラやカンガルーなど固有の野生動物にも被害が及んでいます。シドニー大学の研究者によると、推定10億匹の動物が犠牲になっているとみられ、生態系への深刻な影響が懸念されています。火災の最大の理由は、高温と乾燥が続いた異常気象だとされており、豪雨により2月に収束しました。(参考・朝日新聞1月30日)

10月：知床自然教室40周年企画「知床への回帰」が開催されました



知床100平方メートル運動参加者の子どもたちを対象に、知床の森で一週間の野外キャンプを行う「知床自然教室」(斜里町主催)が40周年を迎えました。1980年に始まり、のべ1900人の子どもたちが知床から巣立っていきました。2019年10月に参加者OB・OG、リーダー、指導員らが集い、これまでの教室を振り返るイベントが開かれました。合わせて、毎年開催されている植樹祭にも参加しました。

10月：世界自然遺産登録を目指す「奄美大島、徳之島、沖縄島北部および西表島」で、国際自然保護連合(IUCN)が現地調査

世界自然遺産登録を目指す「奄美大島、徳之島、沖縄島北部および西表島」(鹿児島県、沖縄県)で10月、国際自然保護連合(IUCN)が現地調査を行いました。希少種のアマミノクロウサギやヤンバルクイナなどを確認し、環境省職員らから生態系を守る対策などの説明を受けました。IUCNは2020年5月ごろ、登録にふさわしいかをユネスコに勧告し、夏の世界遺産委員会で審査されることになります。(参考・産経新聞10月14日)

10 月：北海道内農林水産業の鳥獣被害が 2 年連続増加、平成 30 年度は 48 億円に

北海道は 2018 年度の野生鳥獣（トドなど海獣を除く）による農林水産業被害額を、前年度 3% 増の 48 億 7 千万円と発表しました。エゾシカが 7 千万円減の 38 億 6 千万円、カラスが 8 千万円増の 3 億 5 千万円、ヒグマが 3 千万円増の 2 億 3 千万円など。カラスによる乳牛の被害や、ヒグマの人里への出没が被害額を押し上げたとされています。（参考・北海道新聞 10 月 31 日）

comment! 東京農工大学名誉教授 梶 光一（当財団理事・専門委員会委員長）



昨年 11 月の狩猟者の誤射による国有林職員の死亡事故以来、国有林と道有林では平日における銃器による狩猟を目的とした入林が規制されています。この規制によるエゾシカの捕獲数の減少が気になります。狩猟事故防止とシカの個体数管理は森林管理の点でも必要なので、次の一手がほしいところです。また、ヒグマやエゾシカなどの大型獣の都市への出没も頻発し、新たな対策が求められています。

11 月：豚コレラの対策続く、誤解を避けるため名称を CSF に変更

2018 年 9 月に岐阜県の養豚場で 26 年ぶりに発生した豚コレラ。その後、愛知県や長野県などの養豚場にも拡大しました。野生イノシシの感染も多数報告されていて、対策として経口ワクチンの散布などが行われています。人の感染症であるコレラと混同されやすいため、11 月、政府は豚熱（CSF）と名称を変更しました。

comment! 岐阜大学応用生物科学部教授 鈴木 正嗣（当財団専門委員）



岐阜県では、CSF 対策の一環として狩猟が制限され、個体数調整による捕獲強化が図られた。従事者の多くは一般狩猟者であることから、防疫意識の浸透も喫緊の課題となっている。環境省と農水省は、昨年 12 月に「CSF・ASF 対策としての野生イノシシの捕獲等に関する防疫措置の手引き」を公表した。しかし、長年にわたり趣味としてのイノシシ猟に携わってきた一般狩猟者にとっては、そのハードルはやや高いと想像される。CSF の発生は「感染症対策の現場における専門的捕獲技術者の必要性」をも浮き彫りにしたのかもしれない。

12 月：イノシシが東京 23 区内に出没

12 月 3 日、周辺にビルや民家が立ち並ぶ東京都足立区の荒川河川敷に、1 頭のイノシシが出没しました。何とか捕獲しようと警察が出動する騒ぎに。その前後にも複数の目撃情報が寄せられ、4 日には別個体と思われるイノシシが、埼玉県富士見市の民家敷地内で捕獲されました。（参考・日本経済新聞 12 月 10 日）

comment! 東京農工大学名誉教授 梶 光一（当財団理事・専門委員会委員長）



新幹線で移動中に、日本経済新聞から取材依頼の電話があり、足立区に出没した場所を確認すると、何と実家のすぐ近く。里地里山では過疎高齢化によって、人の撤退と大型獣の分布拡大が同時に進行し、大型獣の分布の前線は都市近郊まで迫ってきています。都市へ侵入定着する動物をアーバンワイルドライフと呼びますが、その対応にも野生動物管理の専門家が必要です。

知床自然大学院大学設立財団のおすすすめ本紹介



セレンゲティ・ルール —生命はいかに調節されるか

ショーン・B. キャロル 著 高橋 洋 訳
紀伊國屋書店 (2017 年) 2,200 円 + 税

本の題名にあるセレンゲティ国立公園の生態系は、タンザニア北部とケニア南西部の一部にまたがる面積 2 万 6 千平方キロの大草原である。人類の発生の地でもあり、地球上で唯一大型動物相が原生の自然生態系のなかで維持されている。この地で、オックスフォード大学に在籍していたトニー・シンクレアは、博士論文の研究課題として、急速に拡大するスイギュウの群れを対象に、なぜスイギュウは増えたのかとの問いをたてる。その結果、家畜の牛疫の予防接種プログラムが、スイギュウとヌーからのウィルスを除去する余剰効果があったことを突き止める。病原菌が捕食者と同様な役割を果たしていたのだ。シンクレアの発見はそれにとどまらない。牛疫ウィルスの除去が、栄養カスケード（捕食被食関係を通じて段階的に効果を及ぼす経路）の束縛を解き放ち、草食動物の増加が草の減少と捕食者の増加、草が減ることによる火災の減少、樹木の増加にともなうキリンの増加をもたらせた。著者は、セレンゲティの生態系に見出した個体数を調節するルールを「セレンゲティ・ルール」と呼んだ。実は、分子レベルにおける制御メカニズムもセレンゲティ・ルールにしたがって「すべてが調節されている」と具体例をあげて明快に説く。本書は捕食者と餌資源がどのように野生動物の個体数調節に寄与するかを考えるうえでも重要な書である。（梶 光一）



となりの野生ヒグマ いま何が起きているのか

北海道新聞野生生物基金、北海道新聞社 編
北海道新聞社 (2019 年) 1,500 円 + 税

昨年、札幌市の住宅街に連日ヒグマが出没し、全国的な話題となった。200 万都市に暮らす住民にとっても、ヒグマは身近な存在であることを示す出来事だ。各地の農耕地や観光地に出没し、時には市街地にも現れて様々な軋轢が生じている。農作物被害の増加、観光客との遭遇、生活圏で起きる軋轢も増加している。本書は、早くからヒグマの問題に取り組む研究者や現場の専門家の文章で構成されている。シカの増加がヒグマの生態に与えた影響、駆除が軋轢の解消に結びつかない理由、人慣れグマはなぜ生まれるのか、個体識別と行動履歴からわかったこと、住民が心がけるべきこと等、最近の事例や研究結果を基に詳しく解説されている。野生のシンボルでもあるヒグマと人との共存はどうあるべきか、農村はもちろん都市の住民にも考えてもらおうきっかけになる一冊である。（中川 元）

■ 知床ネイチャートーク (Winter Talk) を開催しました

2020年1月24日(金)は知床第一ホテルで、26日(日)は北こぶし知床ホテル&リゾートで、「知床ネイチャートーク」を開催しました。中川元・業務執行理事(元知床博物館長)が、もうすぐ知床沿岸にやってくる流氷の状況、流氷が知床の自然を支えていることなどをお話しました。2会場合わせて約60人の方にご参加いただき、パンフレットやオリジナル絵はがきセットを配布しました。



知床第一ホテル (1月24日)



北こぶし知床 ホテル&リゾート (1月26日)

■ 札幌シャチの会 リレーセミナーを開催しました

札幌シャチの会(知床自然大学院大学設立財団を応援する市民の会)は、2019年11月から始めたリレーセミナーの第3回(1月22日)を、札幌エルプラザで開催しました。今回のテーマは「知床の歴史・保護の歩みと現況」で、講師は神山和義さん。知床はどこから来てどこへ行くのか?知床自然大学への道が必然であることを学びました。



札幌エルプラザ (1月22日)

※新型コロナウイルスの感染予防のため、2月26日に予定していた第4回のセミナーは中止しました。また3月28日に予定していた特別講演会は、5月23日(土)に延期いたしました。

<札幌シャチの会 特別講演会>

日 時：2020年5月23日(土) 14:00~16:00

場 所：札幌エルプラザ 4階大研修室

(札幌市北区北8条西3丁目)

テーマ：「知床の役割と可能性を考える」

講 師：中川元・当財団業務執行理事

参加費：無料

お申込み・お問い合わせ

上野雅樹 (ueno.masaki@goo.co.jp)

■ 計画策定専門委員会報告

第 9 回 (2019 年度第 1 回) 計画策定専門委員会

開催日時：2020 年 2 月 21 日 (金) 午後 1 時 15 分より
開催場所：北海道立道民活動センター かでの 2.7

出席委員 8 名。

知床ネイチャーキャンパス 2019 の開催結果を報告。ネイチャーキャンパス 4 年間の開催結果のまとめをもとに、2020 年以降の実施事業、他地域との連携による人材養成体制や認証制度等について検討しました。また、人材育成を巡る最近の情勢と教育機関実現へ向けたロードマップについて意見交換を行い、理事会の議論へつなげました。



■ 理事会報告

令和元年度 (2019 年度) 第 3 回理事会

開催日時：2020 年 3 月 20 日 (金) 午後 1 時 30 分より
Web 理事会として開催

※理事会は全出席者を Zoom でオンライン接続し、一堂に会するのと同様に相互に充分議論できる環境で行われました。

- 決議事項
1. 「令和 2 年度 (2020 年度) 事業計画 (案)」承認の件
 2. 「令和 2 年度 (2020 年度) 収支予算 (案)」承認の件
 3. 「知床自然大学院大学計画策定専門委員会」委員選任の件

- 報告事項
1. 代表理事・業務執行理事の業務報告
 2. 賛助会員の加入状況・募金の状況
 3. 「知床ネイチャーキャンパス 2019」の開催結果報告
 4. 「知床ネイチャートーク 2019」の開催結果報告
 5. 首都圏・道央圏の賛助会員・支援者対象イベントの開催状況報告
 6. 日本学術会議の回答とその後の諸情勢について
 7. シンポジウム・学会等への参画と活動連携について
 8. 活動助成金の応募と審査結果について
 9. 第 9 回専門委員会の開催結果について
 10. ファンドレイジング活動について

- 協議事項
1. 次年度以降の事業展開と資金確保について



■ 知床ネイチャーキャンパス 2019 の動画を公開中

2019年9月7、8日、11～13日に開催した「知床ネイチャーキャンパス2019」の動画を Youtube 上で公開しています。当財団のホームページからもご覧いただけます。



<http://shiretoko-u.jp/2019/12/27/naturecampus2019-doga/>

知床自然大学院大学設立財団は、
活動を支援して下さる **賛助会員、寄附金** を募集しています

■ 賛助会員とは

この財団の目的に賛同する個人・団体・法人が会費を通じて支援するものです。

■ 会員の年会費 ※年度ごとの納入となります。

個人会員：5,000 円

団体会員：10,000 円

法人会員：20,000 円

法人特別会員：100,000 円

■ 加入申込み方法

「申込書」と「郵便振替用紙」をご使用ください。これらは当財団ホームページからプリントアウトできます（入金 は右記口座への入金でも受付しています）



知床自然大学院大学設立財団ホームページ
賛助会員・寄附金募集ページ

■ 賛助会員の特典

当財団のニュースレターや絵はがき、講演会やネイチャーキャンパス等の案内情報をお送りします。

■ 寄附金について

寄附金も随時募集しています。賛助会員加入同様にお申し込みください。

■ 税制優遇

当財団への寄附金・賛助会費には税制上の優遇措置があります。

■ 主な入金口座について

ゆうちょ銀行 記号 19940 (普) 10138691
(※他の金融機関から 店名九九八 番号 1013869)
北洋銀行斜里支店 店番 452 (普) 3119440
北海道銀行斜里支店 店番 904 (普) 0530326
網走信金斜里支店 店番 003 (普) 0284957
大地みらい信金羅臼支店 店番 003 (普) 1072873

設立財団ニュースレター 第20号

発行 公益財団法人知床自然大学院大学設立財団

〒099-4117 北海道斜里郡斜里町青葉町 28-10

TEL 0152-26-7770 FAX 0152-26-7773

E-mail sizendaigaku@wine.plala.or.jp

Web <http://www.shiretoko-u.jp>

発行日 2020年3月25日